我等は今や十年来の切実なる希望を一躍承た 次にとつてきり動は如
何なりし
退いて沈黙すべきか進んで積極的活動に入るべきか此の時にあたつて三月十六日の
臨時総会は断乎として白刃を抜き決死の覚悟を期して徹底的に闘ふことを
決議したのである。
かくて三月十八日に火蓋を切つて落されしより以来五月四日迄四十八日間横浜、
大阪、神戸、門司、長崎五港に於て三千人の司厨部員中二千余人の大
同盟が揃つて陸上に船を去り必死の努力をなし要求の貫徹に努力した
のである、

三、友誼団体其他の応援激励

我等が一致して罷業を宣言するや全国の友誼団体及び有識の士はこぞ
つて我等に応援した。
即ち商船司厨部員諸君は商船同志会及びＣＫ倶楽部の協力
により六千余円の義捐金を提供されたのみならず彼等は同様
罷業まで終始一貫し徹底的に援助せられた。
本会会員の近海郵船、東洋、国際、信濃、北陸、南鉄の司厨部諸君
は同じく莫大なる義捐金を社外船の船舶同志会は保険の何割と定め
て義捐金を提供された。
右は本会と共に司厨同盟横浜支部を通じ最も密接なる関係から共に行ら
れた援助であるが商船の甲板部員に依つて組織されてゐる某クラブは五万円海員組
合から個人として数口、他同上会、労働組合評議会、南海同志会、外にカップフロア
倶楽部、鉄関同盟、横浜五港会、横浜市電気労働組合、神戸市電同盟会から
数百円数十円を寄せられ其他の労働運動関係者の熱烈なる応援
を見せた。
激励電報、信書に至つては机上に山をなす状態であり本争議応援の
のため多くの会員は応援団を組織し援助を与へられたものは多く彼は未